

土圧計・間隙水圧計の設置例（一成分土圧）

1. 床掘

計器設置標高より+60cm盛り立て完了後、計器設置用床掘を行う。
床掘は計器設置標高より-10cmまで行う。
床掘面から大径材を取り除き、入念に転圧する。

2. 計器設置準備

土圧計を土の中に埋めておき、温度の安定を図る。
細粒材（a）、中粒材（b）を予め用意しておく。

3. 計器設置

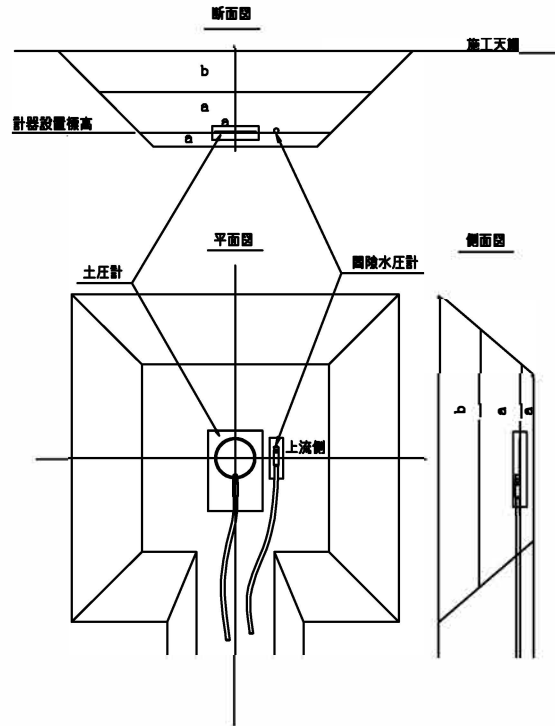
細粒材を使用し床掘面を計器設置標高まで埋め戻し、入念に転圧する。（a）
計器の受圧板、計器本体の載る位置を木槌で十分突き固める。（a）
計器を埋めておいた土の中から取り出し、設置状況と同じ状態にし、初期値を計測する。
（例 鉛直土圧を計測する計器は受圧板を水平に置いた状態で計測したデータを初期値とする。）
設置面に計器を固定する。この時、設置面と受圧板の間に隙間が無いようにする。
計器上5cmを細粒材で埋めて木槌で入念に突き固める。その際、受圧板上は弱い力で繰り返し叩き、十分に突き固める。
細粒材で計器設置標高から30cm上までを埋め戻す。（a）
この時、計器の直上は10cm以上の土被りがくるまで弱い転圧機械で転圧する。
50mmアンダー材で施工天端まで埋め戻し十分に転圧する。（b）
その他の範囲は標準の転圧機械で十分転圧する。
<間隙水圧計の設置手順については間隙水圧計設置要領を参照>

4. 設置中のデータ確認

1) 転圧終了後に、データを確認、 記載する。

土圧計・間隙水圧計設置図（一成分）

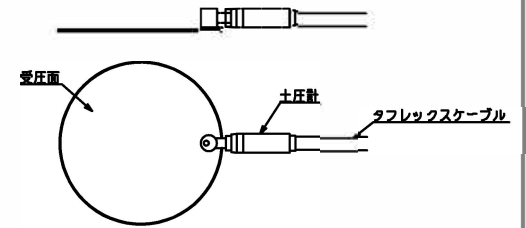
※コア・フィルター部



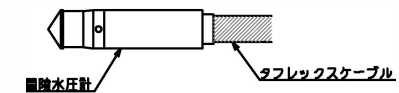
計器埋戻し材料

記号	埋戻し材料（粒径）
a	細粒材（20mmアンダー材）
b	中粒材（50mmアンダー材）

土圧計詳細図



間隙水圧計詳細図



土圧計・間隙水圧計の設置例（三成分土圧）

1. 床掘

計器設置標高より+60cm盛り立て完了後、計器設置用床掘を行う。
床掘は計器設置標高より-10cmまで行う。
床掘面から大径材を取り除き、入念に転圧する。

2. 計器設置準備

土圧計を土の中に埋めておき、温度の安定を図る。

3. 計器設置

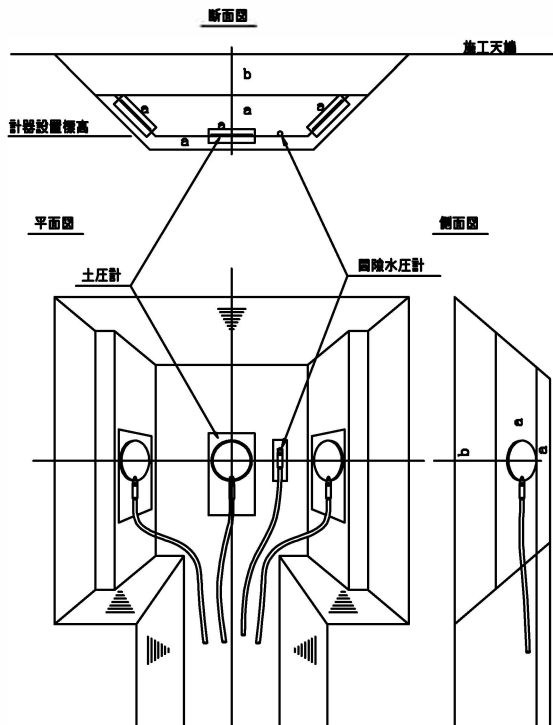
細粒材を使用し床掘面を計器設置標高まで埋め戻し、十分に転圧する。斜面側も同じ厚さで20mmアンダー材を張付け転圧する。(a)
計器の受圧板、計器本体の載る位置を5cm程掘り下げ、細粒材に置き換え、木槌で十分突き固める。
計器を埋めておいた土の中から取り出し、設置状況と同じ状態にし、初期値を計測する。
(例 鉛直土圧を計測する計器は受圧板を水平に置いた状態で計測したデータを初期値とする。)
設置面に計器を固定する。この時、設置面と受圧板の間に隙間が無いようにする。
計器上5cmを図のように細粒材で埋めて木槌で入念に突き固める。(a)
その際、受圧板上は弱い力で繰り返し叩き、十分に突き固める。
計器を三台とも設置し終わったら、20mmアンダー材で計器設置標高から30cm上までを埋め戻す。
この時、計器の直上は10cm以上の土被りがくるまでは、木槌で入念に突き固め、30cm上までは打撃力の弱い転圧機械で転圧する。
その他の範囲は標準の転圧機械で十分転圧する。
中同材で施工天端まで埋め戻し十分に転圧する。
<間隙水圧計の設置手順については間隙水圧計設置要領を参照>

4. 設置中のデータ確認

1)+60cmまで転圧終了後に、データを確認、記帳する。

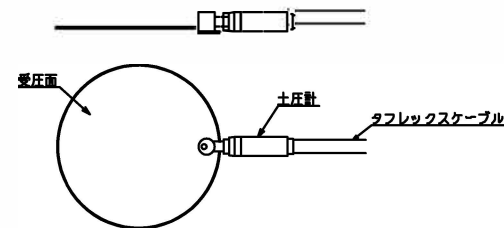
土圧計・間隙水圧計設置図(三成分)

※コア・フィルター部



計器埋戻し材料	
記号	埋戻し材料(粒径)
a	細粒材(20mmアンダー粉)
b	中層材(50mmアンダー粉)

土圧計詳細図



間隙水圧計詳細図

